

命の価値は同じじゃないの？

皆さんはこの記事をご存じだろうか？

「聴覚障害児の事故めぐる裁判 賠償金の算出 遺族“公平に”」

この裁判では、聴覚に障害のある女の子が交通事故に巻き込まれて亡くなり、遺族が賠償を求めている。しかし、事故を起こした運転手側が、聴覚障害者は思考力・言語力・学力を獲得するのが難しく、就職自体も難しい（被告側準備書面より）という理由で、賠償金の額は聴覚障害者の平均賃金で算出すべきだ（女性労働者の平均の40%）と主張した。それに対して、女の子の父親が法廷で「差別だ。公平な判断をお願いしたい」と訴えたのである。

この記事を知った皆さんはどう感じるだろうか。私は、なぜ聴覚障害を理由に賠償金額が少なくなるのだろうか、聴覚障害者の命の価値を軽くみているのではないかと感じた。障害の有無に関係なく、二度と戻ってくることのない1人の女の子の大切な命が、加害者の失態によって失われてしまったのだ。お金では解決できない問題であり、加害者は、生涯をかけて償っていくべきではないのか。しかし、被告側は聴覚障害者の人生を健常者よりも劣るものだというように勝手に考え、被害者家族に残された唯一の賠償金までも減額した。亡くなった女の子は11歳という、まだこれから沢山学び、成長する予定だったであろう。大切な未来が失われたのである。

この裁判を通して、障害者に対する「差別や偏見」が未だに存在していることを感じた。障害がある人もない人も、現代においては様々な働き方や生き方があり、それぞれが一生懸命生きている。障害の有無に関わらず、命の価値は同じであり、みんな同じように生きているのである。だからこそ、障害を理由に命の価値が異なるのはおかしいことだと考える。これからは、障害者への正しい理解が深まり、もっと平等な世の中になるべきだと強く考える。

・NHK「聴覚障害児の事故めぐる裁判 賠償金の算出 遺族“公平に”」(2023年1月2日確認)

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220829/k10013793571000.html>

・NHK 福祉情報サイトハートネット「いのちの格差 障害のある人の「逸失利益」をめぐって」(2023年1月2日確認)

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/549/>